

◆ 主な研究課題・事業 ◆

課題1 西洋なしのシンクイムシ類被害に対する効果的・効率的な防除技術の確立

西洋なしの県内における主要な加害種であるナシヒメシンクイは、近年、9月から10月の高温の影響で、10月の収穫期に幼虫による果実への食害が増加しており、生産現場では防除に苦慮しています。

そこで、シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）の収穫期における産卵状況などの発生実態を明らかにするとともに、効果的な薬剤の選定及び安全性を考慮した交信かく乱剤の活用方法を含めた、効果的・効率的な防除法について検討しています。



ナシヒメシンクイ成虫

課題2 温暖化に対応したさくらんぼ病害防除対策の確立

近年、さくらんぼでは着色期から収穫期にかけての高温により、果実腐敗性病害の一つである黒斑病の発生が増えています。また、葉の黄変や早期落葉を引き起こす褐色せん孔病の発生時期も従来と比較して早まり、生産現場での被害が甚大となっています。

本試験では、さくらんぼ栽培における黒斑病や褐色せん孔病の発生実態から防除適期を明らかにするとともに、効果的・効果的な防除対策を検討しています。



さくらんぼの黒斑病被害果実

課題3 さくらんぼオリジナル新品種「山形C12号」の大玉生産に向けた肥培管理技術の確立

本県オリジナルさくらんぼ新品種「山形C12号（やまがた紅王）」は従来の品種よりも果実肥大に優れることが特徴で、市場や生産者から大きな期待がよせられています。

そこで、大玉品種という特性を十分に発揮できるように、4Lサイズ以上の果実割合を高めるための肥培管理として、春施肥の効果を検討しています。



春施肥の圃場試験

課題4 ぶどう園における剪定枝由来バイオ炭活用技術の開発

果樹園地では毎年剪定枝が発生し、その処分が課題となっています。果樹剪定枝を炭化した「バイオ炭」を園地に施用することによって、温室効果ガス削減の効果が期待されています。

本試験では、剪定枝の効率的な炭化方法を探索するとともに、ぶどう園への剪定枝由来バイオ炭の連年施用が生育、果実品質、土壌環境に及ぼす影響について検討しています。



ぶどう剪定枝からのバイオ炭の作製